



ななほ

市民の友

第682号 毎月1回発行
2007年(平成19年)

11月

発行●那覇市 編集●秘書広報課
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
☎867-0111 ●印刷 (株)近代美術

市の人口と世帯	
※()内はうち外国人	
2007(平成19)年9月末現在	
総人口	316,351 (2,012)
男	152,668 (1,042)
女	163,683 (970)
世帯数	131,093 (1,190)
住民基本台帳人口の内訳(外国人を除く)	
本 庁	93,900
真和志	104,874
首 里	58,097
小 禄	57,468



(円内) 高校生代表として意見発表する読谷高校3年の津嘉山拓大さん(右)と照屋奈津美さん

史実をねじ曲げるな!

高校教科書検定問題

来年の春から高等学校で使用される歴史教科書から、沖縄戦でのいわゆる集団自決に日本軍が直接関与したとする記述が削除された問題で、検定意見の撤回と記述の回復を求める「教科書検定意見撤回を求める県民大会」が9月29日(土)、宜野湾市海浜公園多目的広場で行われました。

この日は、両親に手を引かれた幼子、制服姿の中学生や高校生のグループ、杖をついた高齢者、車イスに乗った障がいを持つ方など、夏を思わせる日差しの下、会場を目指す人の波が途切れることはありませんでした。

また、大会がはじまっても会場に入りきれなかった人々が、遠くから聞こえる集団自決の体験者の証言や高校生代表の訴えに静かに耳を傾けていました。

参加者の一人は「史実をねじ曲げ、しかも無かったことにしようとしていることは、絶対に許さない。歴史をきちんと子や孫に伝え、二度と戦争を起こさないようにするのが、生き残った我々の責任です」と話していました。

この日の会場は、歴史を歪曲しようとする文部科学省への戦没者の声なき声を代弁するかのような、11万6千人余の怒りの声で埋め尽くされました。

(3面に関連記事)

主な紙面

始めようあなたのエコライフ
那覇市環境フェア2007
歴史の歪曲は絶対に許さない
子育て応援ガイド
子どもの笑顔がいっきと輝くまちへ
情報PACK

6・4・3・2
7・5

協働のまちづくり つむぎ 那覇を紡ぐ

29

去る8月23日、生活の足を考えるシンポジウム実行委員会(以下「実行委員会」という。)主催による「生活の足を考える交通シンポジウム」が開催されました。

このシンポジウムは、公募で集まった小学校5・6年生14名が、環境と交通をテーマに、会場に詰め掛けた大人達へ向けて地球環境の現状と県や市の交通事情について発表し、解決策を提案し、さらには会場との討論を行うというものです。

シンポジウムに先がけて子どもたちは、環境と交通について、沖縄都市モノレールの見学や、那覇バス社員によるバスローテーションシステムの講習、トランジットモールでの野外学習、NPOで活動されている方々や市職員による講話などを受けた。

シンポジウムで子どもたちは、「レジ袋を1枚作るのに、おちよこ1杯分の石油を使用している」と現状を発表し、解決策として「エコバッグを使用しよう」と提案しました。

他にも「県外と比較しても、異常な車社会である」と現状を発表し、解決策として「車と上手につき合いするには、みんなで乗りあって、効率よくしましょう」などの提案がありました。

環境のために 効率よい車の利用

今回のシンポジウムを主催した実行委員会は、NPO団体やマコミ、事業者、市民などの多様な主体に行政が加わり、自動車について利便性を認めつつも、その反面、利用により生じる問題点排気ガスによる健康被害や地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出、交通事故、騒音、放置車両、中心市街地の衰退、車を運転できない交通弱者に対する利便性の低下などについて、それぞれの得意分野を活かして解決を目指す「協働の取り組み」です。

わたしたちが自動車以外の交通手段を有効に利用することで、健康増進、環境保護、福祉の充実、公共マナーの体得、中心市街地や地域の活性化など、様々な効果が期待できます。

持続可能なまちづくりのために自動車に頼りきったライフスタイルの見直しを図ってみてはいかがでしょうか。



環境のためにも、効率の良い自動車の利用を考えようと提言する子どもたち



「協働」とは、まちづくりのために、市民・事業者・市民団体・行政などが、それぞれの特性を発揮しながら協力しあうことです。